

平成 20 年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会
第 1 回ニホンジカ保護管理部会議事概要（案）

日時 平成 20 年 10 月 8 日（水）

10:00～12:30

場所 奈良県奈良市登大路町 6-2
奈良県文化会館 第 1 会議室

1. 開会
2. 議事
 - (1) 平成 20 年度事業実施状況について
 - ① 個体数調整実施状況について
 - ② 植生保全対策実施状況について
 - (2) ニホンジカ保護管理に関する課題について
3. 閉会

平成 20 年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 第 1 回ニホンジカ保護管理部会出席者名簿

1. 委員

柴田 敏式	名古屋大学大学院生命農学研究科 教授
高橋 裕史	(独)森林総合研究所関西支所生物多様性グループ
高柳 敦	京都大学大学院農学研究科 講師
田村 義彦	大台ヶ原・大峰の自然を守る会 会長
鳥居 春己	奈良教育大学教育学部付属自然環境教育センター 准教授
村上 興正	元京都大学 講師
横田 岳人	龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科 准教授

2. 関係機関

鳥谷 和彦	近畿中国森林管理局三重森林管理署 流域管理調整官
若山 学	奈良県農林部森林保全課 主査
吉川 覚	三重県環境森林部自然環境室 副室長
南 友二	上北山村建設産業課 主事
森岡 哲也	吉野きたやま森林組合総務課 参事
福西 貢	奈良県獣友会上北山支部 会長
内田 克宏	社団法人三重県獣友会 副会長（ご欠席）

3. 事務局

瀬川 俊郎	近畿地方環境事務所	所長
田邊 仁	近畿地方環境事務所	統括自然保護企画官
高橋 勝志	近畿地方環境事務所	野生生物課長
松井 裕	近畿地方環境事務所	自然再生企画官
角 智則	近畿地方環境事務所	自然保護官
櫻又 涼子	近畿地方環境事務所	自然保護官
山本 昌世	近畿地方環境事務所	係員
濱名 功太郎	近畿地方環境事務所	吉野自然保護官事務所 自然保護官
瀬川 涼	近畿地方環境事務所	吉野自然保護官事務所 自然保護官
樋口 高志	(株) 環境総合テクノス	環境共生部リーダー
荒木 良太	財団法人 自然環境研究センター	第一研究部 部長代理
藤田 曜	財団法人 自然環境研究センター	第一研究部

○議事概要

【(1) 平成 20 年度事業実施状況について】

【① 個体数調整実施状況について】

■個体数調整（資料 1 資料 2、）

○麻醉銃で効果が上がっていたが、銃による捕獲の影響で、麻醉銃による捕獲効率が下がった。今後どのように進めていくかが課題。

○夏に個体確認のピークがあるので、そこに捕獲の労力をかける必要がある。

○大型わなについては労力やコストがかかるため、慎重な対応が必要である。

■誘引試験（資料 1 資料 2、）

○誘引頭数はビートパルプのほうが多く感じられるが、実際の頭数については個体識別を行ってはいないので、可能ならば今後精査したい。

○ビートパルプは入手困難なので、入手方法、代替餌を考えていきたい。

○ビートパルプについては効果があることは北海道にいたときから確認している。ジュースの絞りかすなどの代替餌についても考察中である。自ら工夫していくことも必要と考えている。

○（財）前田一步園では、大型捕獲柵を用いた捕獲を行っている。これについての詳しい捕獲方法については報告書を後ほど配布する（事務所から各委員に配布済）。

○誘引した個体を逃してしまうと、誘引とは逆の効果が大きく出てしまう。

○誘引場所については、写真、裸地率、動画等を把握、を利用してモニタリング及び評価をする必要がある。

■動態モニタリング（資料 3、資料 4）

○ルートセンサスと糞粒法の関係について、ルートセンサスは瞬間的データ、糞粒法は滞在的データなので、比較しても一致するものはない。

○夏の時期に最大頭数が現れることは、夏の時期のインパクトが植生に影響していると考えられるので、これまでの調査とは別に、そのような視点でのモニタリングが必要である。

○糞粒法とルートセンサスの比較は一致するものではない。糞粒法を継続的にして、断続的に行う区画法で補正するのがよいのではないか。また、夏の時期は糞粒法データのばらつきが大きく出る。

○昨年あたりから、西大台で防鹿柵の設置が急速に進んでいる。その一方で利用調整地区を設定し、原生自然を維持することを行っているという矛盾がある。密度データはばらつきがあり、そのときの値によって増えた、減ったと評価がかわるのは問題である。このデータを用いて、防鹿柵が作られ、装薬銃を用いて捕獲を行うことを判断することは

科学的ではないのではないか。

- 防鹿柵等を設置する根拠について、より論理を詰めておく必要がある。
- シカの密度が減少するというレベルではまだないので、方針変更を行う必要はまだない。
- 大峰山系をみていると、防鹿柵がなく、シカも存在しながらスズタケは生育している。
和佐又山周辺ではスズタケが回復している。シカ以外の要因についても考えるべきではないか？前回の部会では、テングステングス病をモニタリング項目に入っていたはずである。
- テングス病だけで広範囲で枯死するというのも考えにくい。シカが原因であることが明確にならないからテングス病というのも早急な答えである。
- 二つの山系でスズタケが枯れているというのは事実である。
- スズタケの減少要因について、テングス病を含めた調査を行って行くということでやつていきたい。
- ルートセンサスと糞粒法を比較して一致しないのは当然であるが、異なる指標を用いることは必要であり、その意味を明確にしておきながら実施していく必要がある。
- シカの出現状況の季節変化に応じた対応は緊急課題である。
- シカの生息密度と植生の変化の関係は未だ未解明な部分が多い。植物の状況も報告していただきないと、議論できない。
- シカの密度と植生の関係は森林生態系部会でも議論していきたい。
- 様々な調査結果からも、夏のインパクトが大きいことがわかっている。餌がよい（栄養価が高い）と理由だけではなく、剥皮も夏に多く生じていることが明らかになっている。
- 生息密度というとらえ方をするか、利用密度というとらえ方をするか、区別して考えることが必要。
- 手法の使い分けが重要である。SPUE、WPUE についても京都では有効なことがわかっている。この点についても検討が必要である。
- 捕獲によって個体数が抑えられているが、捕獲量が不足していることは明らかである。
- 植物にとっていつインパクトがあると致命的であるか明確にしておく必要がある。

■シカの移動状況（GPS）（資料 5）

- P.4 の（2）12月から1月の低標高地は奈良県である。表現を龍口尾根に直した方がよい。
- 参考資料の元図の地形図に地名を入れてほしい。
- 尾鷲道の辻堂山から尾根が出ており、その先から尾根が分かれている。そのあたりが三重県側からのシカの入り口となっているのではないか。春先に大台にシカが戻る前にそのあたりに網を張れば有効ではないか。非常に狭い尾根となっており、有効性が予想される。そのあたりの分析を行っていただきたい。
- 移動ルートをどのように保護管理に活用していくかは、考えなくてはならない。

- 大台ヶ原だけでは問題は解決できないものであることを示すデータとして重要である。
- 総合的対策が必要である。
- ID番号の「_2」は同一個体の再捕獲と紛らわしいので別番号にしてほしい。
- 防鹿柵の外側200M以上のポイント数も示さないとすべて200m以内にいたと勘違いされてしまう。
- 測量対象面積ではなく、行動圏内で、測位数等のデータを明確にすべき。

■新規手法開発（資料6）

- 大型囲い柵の実施は、今年度中は難しい。
- 全国のくくりわなの使用事例、事故の事例は確認するべきである。
- 上北山ではくくりわなはほとんど行っていない。奈良県では銃獵禁止区域などで使用されている。
- 京都府ではくくりわなでのシカ捕獲が多い。イノシシとクマでの錯誤捕獲はよく起きている。
- 昼だけの作業は効率性が下がるので、昼夜行う方が望ましいのではないか。
- くくりわなについては、熟練者からの意見をもらう必要がある。
- くくりわなを実施した場合、その効果の評価はどうするつもりか。秋の時期は麻酔銃の効率が下がるので、よりくくりわなに重点を置くべきではないか。よりコストをかけて実施するべきではないか。
- 装薬銃を使用する時も委員から早期の使用を望むという意見があった。大台の会議では、特別保護地区、鳥獣保護区であることの位置づけの認識がここ数年で変わってきた。
- 世界的に保護区での野生動物の管理は確立されていない、試行錯誤の段階である。
- 人間がくくりわなにかかった場合、わなを外す等の適切な処置がとれるのか、安全性に不安がある。
- くくりわなはまだ問題があり、期待ができないかもしれない。ただし、試験的に行うことは必要である。

【② 植生保全対策実施状況について（資料7）】

■ラスについて

- 一回剥皮されたところから樹皮はぎが広がるという現象が明らかになっているので、ラス巻きは有効である。また、幹よりも根の方が多く剥皮されているので、根も十分にラスを巻いてほしい。ラスについては幹の変色（コケへの影響）が気になるので、材質について検討していただきたい。
- 根については、これまでも実施しており、継続して行って行く。
- 今年のラスの巻き方は、ラスが浮くようにして巻いている。それは、地衣類への配慮をしたためではないか。

○ラスの巻き方の変更についてもモニタリングが必要である。

【(2) ニホンジカ保護管理に関する課題について（資料8、資料9）】

○これについては時間がないため議論できないが、重要な指摘が詰まっているので、次回等含めて議論していきたい。

○計画と評価が混同して標記されているので、整理してほしい。

○課題について問題点や項目の抜けに気づいたら事務局まで連絡してほしい。

○数字が間違っている。資料9の P.1、西大台の頭数が資料4の頭数が異なっている。資料の信用性が無くなるので注意してほしい。

○捕獲効率が 0.33 ならば 255 人日投入しなければいけない、というような検討も必要である。

○ニホンジカ個体数調整に関わっている中で大台ヶ原の目標達成率が非常に低い。より獣友会に関わっていただいて進むようにがんばっていただきたい。